



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛍池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成 21 年(2009 年)7 月 15 日第 38 号

— 夢 —

少し前まで『ザ・クイズショウ』というテレビドラマが放送されていました。ドラマのストーリーを説明するのは控えますが、ドラマの山場となったときに、主演者であるMC(司会者)が「あなたの夢は何ですか?」と解答者に問いかけます。その「あなたの夢は何ですか?」というセリフを聴いた瞬間、何だか私自身に問われているような、そんな気持ちにさせられてしまいました。そして、いつまでもそのセリフが頭に残っています。

子どもの頃の夢って何だったかなあ?・・・欲しかった物は?やりたかったことは?将来就きたいと考えていた職業は?憧れていた人物像は?・・・どうだったかなあ?と懐かしんでいる自分がいます。がんばっていた自分、挫折した自分、そこには夢を語り合った友がおり、大きく影響を与えてくれた人や支えてくれていた周りの人たちがいたことも思い浮かびます。省みるとさまざまな経験や多くの人たちとの出会いを経て、学び、感じ、将来の自分像を思い描き、今を生きていると実感してきたように思います。

さて、今の自分はどうか?夢を思い描いて輝いているだろうか?日々の現実に、ただ流されてはいないだろうか?他の何かのせいにして、安易に終えてしまおうとしていないだろうか?自分を見失っていないだろうか?そんな今の自分に納得がいらず、少々後ろめたいような気持ちがあったので、ドラマのセリフに引っかかったのかもしれない。

一方、今の子どもたちはどうか?夢を思い描いて輝いているだろうか?そんなことを考えていると、ふと「少年よ、大志を抱け」というクラーク博士の言葉を思い出しました。そう言えば確か続きがあったはず...と確認してみました。

"Boys be ambitious ! Be ambitious not for money or selfish aggrandizement , not for that evanescent thing which men call fame . Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be ."

〔訳:少年よ大志を抱け!お金のためでもなく、自己顕示のためでもなく、まして名誉という空しいものでもない。本来人間があるべき姿のために、大志を抱け。〕



photo by (c)Tomo. Yun

夢とは自分のこととして「なりたい、こうありたい」と願うこと。
志とは社会との関わりの中で、自分の目指すべき道を考えること。
未来を担う子どもたちには、たくさん夢を思い、文字通り大志を抱いてほしいと願います。私自身も過去のこととして懐かしんでいるだけではなく、もっともっと「夢」を見て、「志」高く自分を磨き、そして子どもたちと共に夢を語り合いたいと思います。(井角)

<http://www.yunphoto.net>

夏季休業中の研修

月日(曜)	午前		午後	
	研修名	担当	研修名	担当
7/21(火)	初任者研修(社会体験研修②) 情報基礎研修③	教育センター 教育センター	初任者研修(社会体験研修③) 情報基礎研修④	教育センター 教育センター
7/22(水)	情報基礎研修⑤	教育センター	情報基礎研修⑥ 教育相談研修③	教育センター 教育センター
7/24(金)	理科教育研修(地学)	教育センター	理科教育研修(地学) 生徒(生活)指導研修①	教育センター 青少年補導センター
7/27(月)	情報基礎研修⑦	教育センター	情報基礎研修⑧ 支援教育コーディネーター研修②	教育センター 教育センター
7/28(火)	技術家庭科教育研修(技術) ※1	教育センター	技術家庭科教育研修(技術) 支援教育コーディネーター研修③	教育センター 教育センター
7/29(水)			ニューステージ研修Ⅲ	教育センター
7/30(木)	人権教育研修③	人権教育企画課		
8/3(月)	情報基礎研修⑨ ニューステージ研修Ⅰ	教育センター 教育センター	情報基礎研修⑩	教育センター
8/6(木)	教育相談研修④ ネットワーク担当者研修	教育センター	教育相談研修④ ネットワーク担当者研修	教育センター
8/7(金)	環境教育研修※2	教育センター	障害児教育研修	教育センター
8/20(木)			不登校対応研修②	少年文化館
8/21(金)	情報活用研修①	教育センター	情報活用研修②	教育センター
8/25(火)	情報活用研修③	教育センター	情報活用研修④	教育センター
8/26(水)	情報活用研修⑤	教育センター	情報活用研修⑥	教育センター
8/27(木)	夏期教職員研修会	教育センター		

※1・※2の研修は、中学校初任者研修と兼ねており、初任者はいずれかを選択して実施します。

※ニューステージ研修Ⅱ(小学校)は、各コースによって日程が異なるため、別紙にてお知らせします。

多くみなさんのご参加をお待ちしております。
参加される研修については、それぞれの要項等をご確認ください。



今年の夏期教職員研修会は……

今年は、大阪大学コミュニケーションデザインセンター平田オリザ教授をお迎えし、「学びとコミュニケーションの再生」というテーマでお話いただきます。

平田先生は劇作家・演出家としてもご活躍されています。その視点からも、コミュニケーション力を育む上でのご示唆を数多くいただけるものと思っています。

－ 会話 (conversation) と対話 (dialogue) －

会話とは、親しい人同士のおしゃべり。

対話とは、異なる価値観などを擦り合わせる行為。

授業の中で、子どもたちの考えた意見が、どんどん出せるようにするには、正解のない授業を積極的に取り入れてみることです。また、人と違う意見が出た時に褒めることも大切です。

実際、平田先生の「対話劇の授業」(対話を取り入れた劇の授業)では、グループ共通の課題に取り組んでいる過程で、互いの考えをぶつけ合わせ、新しい価値観に気づかせていきます。

現在、中学2年生が使用している、現代国語の教科書にも平田先生の「対話を考える」「対話劇」が掲載されています。是非、ご参加ください。



と き 8月27日(木)午前10時
会 場 アクア文化ホール
テーマ 「学びとコミュニケーションの再生」
講 師 大阪大学
コミュニケーションデザインセンター
教授 平田 オリザ

英国科学実験講座(クリスマス・レクチャー2009)

いよいよ

冒険! コンピューターの世界へ! 開催!!

ヨーロッパで非常に伝統のある「クリスマス・レクチャー」が、豊中で開催される…毎日わくわくして待っておられる方もたくさんいると思います。子どもたちだけでなく、先生方にとっても参考になり楽しめる講座だと思います。



コンピュータ研究の第一人者
クリストファー・ピンチョン教授
来日!

まだ、席に少し余裕があります。お申し込みをお忘れの間にも間に合いますので、お誘い合わせの上、またはご家族で是非この機会を逃さずご参加ください。

- ◆ と き: 7月30日(木)・31日(金)
両日とも11時～と13時30分～
※内容はすべてちがうものです

- ◆ ところ: 豊中市立市民会館大ホール

- ◆ 申 込: 豊中市教育センターまで

豊中市教育センター [検索](#) **CLICK**
(インターネットからの申し込みも可能です。)

Q. クリスマス・レクチャーとは?

A. 毎年クリスマスの時期にイギリスで開催されている人気の高い「英国科学実験講座」です。昨年ロンドンで実施されたものを豊中で再現します。

Q. なぜクリスマスに科学講座が?

A. 「電気の父」として知られるマイケル・ファラデーが、子どもたちに贈るクリスマスプレゼントとして始めたからです。

Q. どんな実験をするの?

A. 一流の科学者が、実験の演示をしたり、子どもたちを実験に参加させたり、ショーのようにして、科学のおもしろさを教えてくれます。今回は、コンピュータの世界をユニークな実験・実演で楽しく紹介します。



力を信じて・・・

教育相談を続けていると、はっと驚くことがあります。

相談を始めた頃には、子どもの行動に悩み、どう対応すればいいのか出口が見えないようであった保護者のAさん。相談を重ねたある日、子どもに合った対応の素敵なアイデアや、すでにそれを実行しているというエピソードを語られました。相談を続ける中で子どもへの理解を深め、「親として子どものためにできること」について考える力を、発揮されるようになったのではないかと思います。毎日一番近くで成長を見守っている保護者であるからこそ、子どもの性格、苦手なところ、学習でどんな手伝いが必要なのかなど分かって、丁寧に対応しておられました。

保護者の中には、困り感を抱えながらも誰にも本音を言えず、表向き気丈にふるまっている方や、子どもが示す問題行動や課題の現実を受け止めるのがしんどくて学校の先生などに攻撃的な言葉を向けてしまう方がいるかもしれません。子どもが授業にうまく参加できない、友だちに暴力をふるった、など問題行動の報告ばかりを繰り返し聞いたりすると、いったいどうすればいいのかと保護者は悩みを抱え、親である自信をなくしてしまいます。

積み重なっている心の重荷を少しずつ肩代わりしてもらえれば、保護者は、子どもをまっすぐ見つめられるようになり、「親として子どものためにできること」を考える力を発揮できるようになるのではないのでしょうか。心の中にその力の素地を、きっと備えておられるのだと思うのです。

教育相談に初めて来られた保護者に出会う時、その人が子どもの問題行動に対して否定的な言葉を重ねておられたとしても、その人の中には“子どものために考えよう”“何かしてあげたい”と思う力が確かにあると信じて耳を傾けることが、大切ではないかと私は考えています。また、保護者自身のこれまでの子育ての大変さ、そして子どものために何かをしてあげたいという気持ちなどをきちんと受信することで、いつか長いトンネルを抜け、出口が見えてくるのではないかと考えています。

(村田)